【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和5年4月14日(2023.4.14)

【国際公開番号】WO2022/045195
【出願番号】特願2022-545672(P2022-545672)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｂ　1/00(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｂ　1/00　６５０

【手続補正書】
【提出日】令和5年3月27日(2023.3.27)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
しかしながら、上記特許文献１記載の内視鏡用挿入補助チューブでは、管路内に挿入部が挿入されている際は、挿入部に対する流体漏出防止手段の密着により体液の漏出を防止できるが、内視鏡用挿入補助チューブから挿入部を抜去した場合に、流体漏出防止手段の開口部が露呈してしまう。よって、患者の体内から放出された体液及び飛沫が、露呈した流体漏出防止手段の開口部を通って、医師や介助者といった患者の周囲にいる者の粘膜に接触する可能性がある。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１８】
【図１】下部消化管観察用の内視鏡及び内視鏡用挿入補助チューブを用いた内視鏡検査を示す概略図である。
【図２】内視鏡用挿入補助チューブの斜視図である。
【図３】内視鏡用挿入補助チューブの分解斜視図である。
【図４】流体抑制部材の構成を示す斜視図である。
【図５】流体抑制部材に挿入部が挿入された状態を説明する説明図である。
【図６】内視鏡用挿入補助チューブを中心線に沿って切断した要部断面図である。
【図７】図６のＶＩＩ－ＶＩＩ線に沿って切断した要部断面図である。
【図８】内視鏡用挿入補助チューブを挿入した被検者に対して内視鏡検査を行う際の動作について説明する説明図である。
【図９】第１変形例の内視鏡用挿入補助チューブの斜視図である。
【図１０】第１変形例における流体抑制部材の構成を示す斜視図である。
【図１１】第２実施形態の内視鏡用挿入補助チューブの斜視図である。
【図１２】第２実施形態の内視鏡用挿入補助チューブの構成を示す分解斜視図である。
【図１３】第３実施形態における流体抑制部材の構成を示す斜視図である。
【図１４】第３実施形態の内視鏡用挿入補助チューブの構成を示す分解斜視図である。
【図１５】第３実施形態の内視鏡用挿入補助チューブを中心線に沿って切断した要部断面図である。
【図１６】第２変形例の内視鏡用挿入補助チューブを中心線に沿って切断した要部断面図

である。
【図１７】第３変形例の内視鏡用挿入補助チューブを中心線に沿って切断した要部断面図である。
【図１８】第４変形例の内視鏡用挿入補助チューブを中心線に沿って切断した要部断面図である。
【図１９】第５変形例の内視鏡用挿入補助チューブを挿入方向と直交する方向に切断した要部断面図である。